

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ホッカイドウカガクダイガク 学校法人 北海道科学大学								
フリガナ大学の名称	ホッカイドウカガクダイガク 北海道科学大学 (Hokkaido University of Science)								
大学本部の位置	北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号								
大学の目的	「科学的市民」の育成を教育理念の中心に据えて、知識基盤社会を担う市民としての汎用的技能・能力と時代の要請に即した専門の学術を教授・研究し、高い応用能力と健全な心身を備え、科学的思考によって専門職としての役割を主体的に果たせる人材を育成することにより、地域社会の活性化に寄与することを使命とする。								
新設学部等の目的	<p>(情報科学部) 幅広い教養と倫理観、コミュニケーション力と情報科学分野の知識と技術を有し、多様な価値観と新しい発想のもと、社会の課題発見と解決、さらには持続的な社会の実現に、情報科学の専門職として主体的な役割を果たすことのできる人材を育成する。</p> <p>(経営情報学科) 「工学分野」の「経営工学」を基礎とする教育研究を通して、「経済社会の一員として求められる汎用的技能や職業観と課題解決能力及び現代社会に関する知識の理解とともに、情報処理・計算・データ分析、システム化、情報倫理・情報社会の観点から、情報と情報技術の在り方についての見方や考え方を働かせ、経営戦略を踏まえた情報化戦略の推進や情報技術を活用した業務改革を図るための諸課題を追究し、解決する活動を通して、経済社会の発展に貢献できる技術者」を養成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	情報科学部 (Faculty of Information Science and Technology)	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	北海道 札幌市手稲区前田 2条12丁目361番24
	経営情報学科 (Department of Management Information)	4	50	—	200	学士 (経営情報学) (Bachelor of Management Information)	工学関係	令和9年4月 第1年次	北海道 札幌市手稲区前田 7条15丁目4番1号
計		50	—	200					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	北海道科学大学 未来デザイン学部 人間社会学科(廃止) (△50) ※令和9年4月学生募集停止 地域創造学部 地域創造学科 (75) (令和8年3月認可申請)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	情報科学部 経営情報学科	47科目	23科目	2科目	72科目	124単位			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
		人	人	人	人	人	人	人	
新 設 分	情報科学部 経営情報学科	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)	0 (0)	29 (14)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			
	地域創造学部 地域創造学科	10 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (4)	0 (0)	41 (9)	令和8年3月認可申請 大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (4)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	10 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (4)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	10 (4)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	12 (4)			
計	17 (10)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	20 (11)	0 (0)	— (—)		
既 設 分	工学部 機械工学科	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	47 (47)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)				

既 設 分	工学部 電気電子工学科	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	40 (40)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
	工学部 建築学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	61 (61)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 7 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	14 (14)			
	工学部 都市環境学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	43 (43)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)				

既 設 分	情報科学部 情報科学科	7 (8)	9 (8)	4 (4)	1 (1)	21 (21)	0 (0)	39 (39)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (8)	9 (8)	4 (4)	1 (1)	21 (21)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (8)	9 (8)	4 (4)	1 (1)	21 (21)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (8)	9 (8)	4 (4)	1 (1)	21 (21)			
	薬学部 薬学科	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)	0 (0)	39 (39)	大学設置基準別表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 25人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	23 (23)	14 (14)	13 (13)	7 (7)	57 (57)			
	保健医療学部 看護学科	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)	3 (3)	48 (48)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 9 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	10 (10)	5 (5)	9 (9)	6 (6)	30 (30)				

既 設 分	保健医療学部 理学療法学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	54 (54)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	2 (2)	1 (1)	3 (3)	11 (11)			
	保健医療学部 臨床工学科	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	63 (63)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	4 (4)	4 (4)	3 (3)	2 (2)	13 (13)			
	保健医療学部 診療放射線学科	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	54 (54)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	5 (5)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	12 (12)				

既 設 分	未来デザイン学部 メディアデザイン学科		7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	38 (38)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 11人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		7 (7)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	16 (16)			
計		87 (88)	63 (62)	36 (36)	25 (25)	211 (211)	3 (3)			— (—)
合計		104 (98)	64 (62)	37 (37)	26 (25)	231 (222)	3 (3)	— (—)		
職 種		専 属			そ 他		計			
事 務 職 員		107人 (107)			23人 (23)		130人 (130)			
技 術 職 員		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
図 書 館 職 員		2 (2)			0 (0)		2 (2)			
そ の 他 の 職 員		3 (3)			0 (0)		3 (3)			
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
計		112 (112)			23 (23)		135 (135)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		北海道科学大学 高等学校(収容定 員:900人)と共 用。北海道私立 高等学校におけ る必要面積の基 準なし		
	校 舎 敷 地	207,475㎡	19,694㎡	41,825㎡		268,994㎡				
	そ の 他	1,366㎡	0㎡	0㎡		1,366㎡				
	合 計	208,841㎡	19,694㎡	41,825㎡		270,360㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		北海道科学大学 高等学校(必要面 積:5,040㎡、収 容定員:900人)と 共用			
	76,416㎡ (76,416㎡)	5,371㎡ (5,371㎡)	10,213㎡ (10,213㎡)		92,000㎡ (92,000㎡)					
教室・教員研究室		教 室	451室	教 員 研 究 室		10室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分図書159,936 冊、学術雑誌 1,769種 〔機械・器具〕 学科所有の数を 記載。 大学全体での共 用分は10,700点		
	情報科学部経営情報 学科	8,367 [681] (7,848 [681])	93 [0] (74 [0])	714 [505] (714 [505])	466 [415] (466 [415])	1,793 (1,793)	— (—)			
	計	8,367 [681] (7,848 [681])	93 [0] (74 [0])	714 [505] (714 [505])	466 [415] (466 [415])	1,793 (1,793)	— (—)			
スポーツ施設等	スポーツ施設		講 堂		厚生補導施設		大学全体			
	5,720㎡		0㎡		4,164㎡					

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費は、電子ジャーナル・データベースを含む
	教員1人当り研究費等		370千円	370千円	370千円	370千円	-	-	
	共同研究費等		799千円	799千円	799千円	799千円	-	-	
	図書購入費	1,574千円	582千円	1,164千円	1,745千円	2,327千円	-	-	
	設備購入費	81,397千円	1,105千円	1,529千円	1,953千円	2,377千円	-	-	
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,450千円	1,250千円	1,250千円	1,250千円	-	-		
学生納付金以外の維持方法の概要	手数料、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、事業収入等								
大学等の名称	北海道科学大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
工学部						0.93		北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号	
機械工学科	4	92	—	368	学士(工学)	0.87	平成20年度		
情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年度		※令和7年度より学生募集停止(情報工学科)
電気電子工学科	4	80	—	320	学士(工学)	0.95	平成20年度		
建築学科	4	90	—	340	学士(工学)	1.02	平成26年度		※令和7年度入学定員増(10人)(建築学科)
都市環境学科	4	50	—	200	学士(工学)	0.85	平成26年度		
情報科学部						1.05			
情報科学科	4	100	—	200	学士(工学)	1.05	令和7年度		
薬学部						1.00			
薬学科	6	180	—	1,080	学士(薬学)	1.00	平成30年度		
保健医療学部						1.05			
看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	1.12	平成26年度		
理学療法学科	4	50	—	200	学士(理学療法学)	1.01	平成26年度		
義肢装具学科	4	—	—	—	学士(義肢装具学)	—	平成24年度		※令和7年度より学生募集停止(義肢装具学科)
臨床工学科	4	70	—	280	学士(臨床工学)	0.90	平成20年度		
診療放射線学科	4	50	—	200	学士(放射線技術学)	1.18	平成26年度		
未来デザイン学部						1.02			
メディアデザイン学科	4	90	—	340	学士(工学)	0.99	平成20年度		※令和7年度入学定員増(10人)(メディアデザイン学科)
人間社会学科	4	50	—	200	学士(工学)	1.08	平成20年度		※令和9年度より学生募集停止(人間社会学科)

大学等の名称	北海道科学大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	工学研究科 修士課程	年	人	年次人	人		倍		北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号
	機械工学専攻	2	5	—	10	修士(工学)	1.60	平成4年度	
	電気電子工学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	0.75	平成24年度	
	情報工学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	0.87	平成24年度	
	建築学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	0.50	平成2年度	
	都市環境学専攻	2	4	—	8	修士(工学)	0.50	平成4年度	
	保健医療学研究科 修士課程						0.88		
	看護学専攻	2	5	—	10	修士(看護学)	0.50	平成30年度	
	リハビリテーション科学専攻	2	4	—	8	修士 (リハビリテーション科学)	0.87	平成30年度	
	医療技術学専攻	2	4	—	8	修士 (医療技術学)	1.37	平成30年度	
	工学研究科 博士後期課程						0.22		
	工学専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.22	平成28年度	
	保健医療学研究科 博士後期課程						1.33		
	保健医療学専攻	3	3	—	9	博士(保健医療学)	1.33	令和2年度	
	薬学研究科 博士課程						1.00		
薬学専攻	4	3	—	12	博士(薬学)	1.00	平成30年度		
附属施設の概要	<p>名称：薬用植物園 目的：薬学部及び薬学研究科の教育と研究に使用するため 所在地：北海道札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号 北海道科学大学キャンパス内 設置年月：令和3年10月 規模等：1,366㎡</p> <p>名称：北海道科学大学サテライトキャンパス 目的：本学の在学生・教職員の教育研修施設や、社会人の学習機会を提供する 教育研究の拠点として使用するため 所在地：北海道札幌市豊平区中の島2条6丁目2-4 北海道自動車学校3階 設置年月：令和6年8月 規模等：163.98㎡</p>								

教育課程等の概要																	
(情報科学部経営情報学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員 (助手を除く)	
H U S ス タ ン ダ ー ド 科 目	日本語表現法（作文、論文）	1前	○	1			○								1	オムニバス・ 共同（一部）	
	日本語表現法（読解、分析）	1後	○	1			○								1		
	英語（環境）	1前	○	1			○								5		
	英語（科学）	1前	○	1			○								5		
	英語（時事）	1後	○	1			○								5		
	課題発見解決法Ⅰ（課題発見解決スキル）	1後	○	1				○							1		
	課題発見解決法Ⅱ（地域課題）	2前	○	1				○							3		
	情報処理法	1前	○	1				○							1		
	統計分析法	1前	○	2				○							1		
	データサイエンス	1後	○	2				○							1		
	AI入門	2前	○	2				○									
	フレッシュマンセミナー	1前	○	1				○		6		1					
	+Professionalセミナー	2後	○	1				○							1		
	現代倫理学	2後	○	2				○							1		
SDGs（環境と自然）	1前・後				1		○							1	オムニバス・ メディア		
SDGs（環境と人権）	1前・後				1		○							2			
SDGs（国際平和と民族）	1前・後				1		○							1			
SDGs（多文化共生）	1前・後				1		○							1			
小計（18科目）	—	—	—	18	4	0	—	—	—	6	0	1	0	0	19	—	
共 通 科 目	体育実技Ⅰ	1前			1										1	※演習	
	体育実技Ⅱ	1後			1										1		
	健康科学	1前				2		○							1		
	日本国憲法	2後				2		○							1		
	キャリア形成Ⅰ	1後		1					○						1		
	キャリア形成Ⅱ	2前		1					○						1		
	ビジネススキルⅠ	3前		2					○		1						
	ビジネススキルⅡ	3後		2					○		1						
	技術者のための英語	1後		1					○						5		
小計（9科目）	—	—	—	7	6	0	—	—	—	1	0	0	0	0	9	—	
専 門 基 礎 科 目	情報科学概論	1前	○	2			○			1						共同	
	経営情報概論	1前	○	2			○			2							
	ICTリテラシー	1前	○	2				○		1							
	情報数理Ⅰ	1前	○	2			○			1							
	情報数理Ⅱ	1後	○	2			○			1							
	情報倫理	2前	○	2			○			1							
	小計（6科目）	—	—	—	12	0	0	—	—	3	0	0	0	0	0	—	
	専 門 教 育 科 目	情報理論Ⅰ	2前	○	2			○			1						オムニバス・ 共同（一部）
		情報理論Ⅱ	2後	○	2			○			1						
		ハードウェアとソフトウェア	1後	○	2			○			1						
		アルゴリズムとデータ構造	2前	○	2			○			1						
		プログラミング言語と言語処理系	1後	○	2			○			1						
		プログラミングⅠ	2前	○	2				○			1					
プログラミングⅡ		2後	○	2				○				1					
データサイエンス演習Ⅰ		2後	○	2				○		1							
データサイエンス演習Ⅱ		3前	○	2				○		1							
ビジネスデータサイエンス		3後	○	2				○		1							
人工知能と機械学習		3後	○	2				○		1							
経営科学		1後	○	2				○		1					1		
経営情報システム		2前	○	2				○		1					1		
小計（13科目）	—	—	—	26	0	0	—	—	5	0	1	0	0	1	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員			
専門教育科目	Webプログラミング	3前			2			○											
	コンピュータシステム	2前			2			○			1								
	データベース	2後			2			○					1						
	情報ネットワークとセキュリティ	2後			2			○									1		
	マルチメディア	3前			2			○									1		
	ソフトウェア開発基礎	3後			2			○			2							共同	
	ソフトウェア開発演習	4前			2				○		2							共同	
	システム開発技術基礎	2後	○	2					○					1					
	システム開発技術演習	3前	○	2						○				1					
	機械学習演習	4前			2					○		1							
	デジタル技術活用	4前			2				○									1	
	シミュレーション	4前			2				○									1	
	オペレーションズ・リサーチ	2後			2				○			1							
	経営管理システム	3後			2				○			1						1	オムニバス・共同(一部)
	会計情報システム	3後			2				○			1						1	オムニバス・共同(一部)
	原価管理システム	3後			2				○			1						1	オムニバス・共同(一部)
	生産管理システム	3後			2				○									1	
	経営情報分析	4前			2				○			1							
	ロジカルシンキング	4前			2				○									1	
	イノベーション・デザイン	4前			2				○									1	
小計(20科目)		—	—	4	36	0		—			6	0	1	0	0	0	5	—	
専門研究科目	経営情報研究法	3前	○	2				○			1								
	経営情報演習Ⅰ	3前	○	2					○		1								
	経営情報演習Ⅱ	3後	○	2					○		1								
	経営情報実践Ⅰ	3前			2				○									1	
	経営情報実践Ⅱ	3後			2				○									1	
	卒業研究	4通	○	8					○		6		1						
小計(6科目)		—	—	14	4	0		—		7	0	1	0	0	0	1	—		
合計(72科目)		—	—	81	50	0		—			7	0	1	0	0	0	29	—	
学位又は称号		学士(経営情報学)			学位又は学科の分野				工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等												
HUSスタンダード科目から20単位(必修18単位、選択必修2単位(SDGs(環境と自然)、SDGs(環境と人権)、SDGs(国際平和と民族)、SDGs(多文化共生)から2単位))、共通科目及び専門教育科目から104単位以上(必修63単位含む)、合計124単位以上を修得すること。 ・履修科目の登録の上限:前期20単位、後期20単位							1学年の学期区分			2学期									
							1学期の授業期間			15週									
							1時限の授業の標準時間			90分									

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報科学部経営情報学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
HUSスタンダード科目	日本語表現法（作文、論文）	1前	○	1			○								1		
	日本語表現法（読解、分析）	1後	○	1			○								1		
	英語（環境）	1前	○	1			○								5		
	英語（科学）	1前	○	1			○								5		
	英語（時事）	1後	○	1			○								5		
	課題発見解決法Ⅰ（課題発見解決スキル）	1後	○	1				○							1		
	課題発見解決法Ⅱ（地域課題）	2前	○	1				○	○						3		
	情報処理法	1前	○	1				○	○						1		
	統計分析法	1前	○	2				○	○						1		
	データサイエンス	1後	○	2					○						1		
	+Professionalセミナー	2後	○	1				○							1		
	現代倫理学	2後	○	2				○							1		
SDGs（環境と自然）	1前・後				1		○							1			
SDGs（環境と人権）	1前・後				1		○							2	オムニバス・メディア		
SDGs（国際平和と民族）	1前・後				1		○							1	メディア		
SDGs（多文化共生）	1前・後				1		○							1	メディア		
小計（16科目）	—	—	—	15	4	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	19	—
共通科目	体育実技Ⅰ	1前			1					○					1		
	体育実技Ⅱ	1後			1					○					1		
	健康科学	1前			2		○								1		
	日本国憲法	2後			2		○								1		
	キャリア形成Ⅰ	1後		1				○							1		
	キャリア形成Ⅱ	2前		1			○								1		
	技術者のための英語	1後		1				○							5		
小計（7科目）	—	—	—	3	6	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	9	—
合計（23科目）	—	—	—	18	10	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	23	—
学位又は称号	学士（経営情報学）			学位又は学科の分野			工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
HUSスタンダード科目から20単位（必修18単位、選択必修2単位（SDGs（環境と自然）、SDGs（環境と人権）、SDGs（国際平和と民族）、SDGs（多文化共生）から2単位））、共通科目及び専門教育科目から104単位以上（必修63単位含む）、合計124単位以上を修得すること。 ・履修科目の登録の上限：前期20単位、後期20単位							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業の標準時間			90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

（情報科学部経営情報学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員			
H U S I S タ ン ダ ム ス	AI入門	2前	○	2					○										
	フレッシュマンセミナー	1前	○	1					○									オムニバス・共同（一部）	
	小計（2科目）	—	—	3	0	0			—		6	0	1	0	0	0		—	
科 目 共 通	ビジネススキルⅠ	3前		2					○										
	ビジネススキルⅡ	3後		2					○									※演習	
	小計（2科目）	—	—	4	0	0			—		1	0	0	0	0	0		—	
専 門 基 礎 科 目	情報科学概論	1前	○	2					○										
	経営情報概論	1前	○	2					○									共同	
	ICTリテラシー	1前	○	2						○									
	情報数理Ⅰ	1前	○	2					○										
	情報数理Ⅱ	1後	○	2					○										
	情報倫理	2前	○	2					○										
	小計（6科目）	—	—	12	0	0			—		3	0	0	0	0	0		—	
	専 門 教 育 科 目	情報理論Ⅰ	2前	○	2					○									
		情報理論Ⅱ	2後	○	2					○									
		ハードウェアとソフトウェア	1後	○	2					○									
		アルゴリズムとデータ構造	2前	○	2					○									
		プログラミング言語と言語処理系	1後	○	2					○									
		プログラミングⅠ	2前	○	2						○			1					
		プログラミングⅡ	2後	○	2						○			1					
データサイエンス演習Ⅰ		2後	○	2						○									
データサイエンス演習Ⅱ		3前	○	2						○									
ビジネスデータサイエンス		3後	○	2						○									
人工知能と機械学習		3後	○	2						○									
経営科学		1後	○	2						○							1	オムニバス・共同（一部）	
経営情報システム		2前	○	2						○							1	オムニバス・共同（一部）	
小計（13科目）	—	—	—	26	0	0			—		5	0	1	0	0	1	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員		
専門教育科目	Webプログラミング	3前			2			○										
	コンピュータシステム	2前			2			○			1							
	データベース	2後			2			○					1					
	情報ネットワークとセキュリティ	2後			2			○									1	
	マルチメディア	3前			2			○									1	
	ソフトウェア開発基礎	3後			2			○			2							共同
	ソフトウェア開発演習	4前			2				○		2							共同
	システム開発技術基礎	2後	○	2					○				1					
	システム開発技術演習	3前	○	2						○			1					
	機械学習演習	4前			2					○		1						
	デジタル技術活用	4前			2				○								1	
	シミュレーション	4前			2				○								1	
	オペレーションズ・リサーチ	2後			2				○			1						
	経営管理システム	3後			2				○			1					1	オムニバス・共同(一部)
	会計情報システム	3後			2				○			1					1	オムニバス・共同(一部)
	原価管理システム	3後			2				○			1					1	オムニバス・共同(一部)
	生産管理システム	3後			2				○								1	
	経営情報分析	4前			2				○			1						
	ロジカルシンキング	4前			2				○								1	
	イノベーション・デザイン	4前			2				○								1	
小計(20科目)	—	—	—	4	36	0		—			6	0	1	0	0	5		—
専門研究科目	経営情報研究法	3前	○	2				○			1							
	経営情報演習Ⅰ	3前	○	2					○		1							
	経営情報演習Ⅱ	3後	○	2					○		1							
	経営情報実践Ⅰ	3前			2				○								1	
	経営情報実践Ⅱ	3後			2				○								1	
	卒業研究	4通	○	8					○		6		1					
小計(6科目)	—	—	14	4	0		—			7	0	1	0	0	1		—	
合計(49科目)		—	—	63	40	0		—			7	0	1	0	0	6		—
学位又は称号		学士(経営情報学)			学位又は学科の分野				工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等											
HUSスタンダード科目から20単位(必修18単位、選択必修2単位(SDGs(環境と自然)、SDGs(環境と人権)、SDGs(国際平和と民族)、SDGs(多文化共生)から2単位))、共通科目及び専門教育科目から104単位以上(必修63単位含む)、合計124単位以上を修得すること。 ・履修科目の登録の上限:前期20単位、後期20単位							1学年の学期区分			2学期								
							1学期の授業期間			15週								
							1時限の授業の標準時間			90分								

授 業 科 目 の 概 要				
(情報科学部経営情報学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
H U S ス タ ン ダ ー ド 科 目	日本語表現法（作文、論文）	○	大学におけるすべての知的活動及び社会生活の土台となる言語技術の一つとして日本語表現能力を捉え、その基本的な運用能力を身に付けることを目的とする。日本語による作文や論文などの文章作成に関する基礎的な技術やルールの理解を深めるとともに、文章を書く際の着想力や発想力、文章の構成に要求される表現技術について学修する。また、社会人として身に付けておかなければならない基本的な言葉の知識、語彙力も修得する。	
	日本語表現法（読解、分析）	○	大学におけるすべての知的活動及び社会生活の土台となる言語技術の一つとして日本語表現能力を捉え、その基本的な運用能力を身に付けることを目的とする。日本語による文章の読解と分析に関する基礎知識の理解を深め、様々な分野の資料を活用して読解力向上を図るとともに、情報の客観的事実を整理し、それを分析し考察するための方法について学修する。また、社会に出るために身に付けておかなければならない基本的な言葉の知識を修得する。	
	英語（環境）	○	環境をテーマとし、それに関係するトピックを通して、英語によるコミュニケーション能力を培うため、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能の運用能力向上を目的とする。文法の再確認と新たな語彙の修得をすると同時に、様々な表現力とコミュニケーションストラテジーを学修する。また、多文化への理解を深め、国際感覚を磨き、グローバル化社会に対応しうる能力を身に付ける。クラスは習熟度別とするが、教材及び試験、評価基準は同一のものを使用する。	
	英語（科学）	○	科学をテーマとし、それに関係するトピックを通して、英語によるコミュニケーション能力を培うため、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能の運用能力向上を目的とする。文法の再確認と新たな語彙の修得をすると同時に、様々な表現力とコミュニケーションストラテジーを学修する。また、多文化への理解を深め、国際感覚を磨き、グローバル化社会に対応しうる能力を身に付ける。クラスは習熟度別とするが、教材及び試験、評価基準は同一のものを使用する。	
	英語（時事）	○	時事をテーマとし、それに関係するトピックを通して、英語によるコミュニケーション能力を培うため、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能の運用能力向上を目的とする。文法の再確認と新たな語彙の修得をすると同時に、様々な表現力とコミュニケーションストラテジーを学修する。また、多文化への理解を深め、国際感覚を磨き、グローバル化社会に対応しうる能力を身に付ける。クラスは習熟度別とするが、教材及び試験、評価基準は同一のものを使用する。	
	課題発見解決法Ⅰ （課題発見解決スキル）	○	社会が多様化し、様々な価値感が存在する中、絶対的な正解の無い「問い」や「話題」に対し、課題を発見し、自ら情報を集め、解決するための基礎能力を身に付けることを目的とする。具体的には、作業単位を小グループとし、提示された「社会・地域課題」を素材として段階的に思考や議論を重ね、「理解・分析」する能力を身に付け、発表までの協働活動を通して「表現・発言する力、多様な価値観への理解、意見交換と議論、調整力、チームワーク」の基礎を体験的に学修する。	
課題発見解決法Ⅱ（地域課題）	○	「課題発見解決法Ⅰ」で学んだ知識・経験を意識し、課題発見・解決のための実践的な能力を身に付けることを目的とする。具体的には、作業単位を小グループとし、提示された「社会・地域課題」に対して状況把握及び問題発見について、現実的かつ多面的な視点から調査分析と思考・議論を段階的に重ねる。その上で、実行可能な解決方法を合意形成（コンセンサス）により見出し、発表（プレゼンテーション）までの一連の過程を体験的に学修する。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
H U S ス タ ン ダ ー ド 科 目	情報処理法	○	課題発見や問題解決のために情報技術を使いこなす上で、社会人が備えておくべき情報リテラシーとして、コンピュータ及びインターネットに関連する知識、技能、判断、態度、思考などの能力修得が必要となる。そのために代表的なソフトウェアを使用し、文章作成、データ処理などの方法について、その目的や結果を考えて適した手段を選択あるいは活用できる情報スキルを身に付けること、さらに、情報技術や情報セキュリティ、情報倫理に関する技術基盤や社会事例、法制度を理解することで、モラルと規則に則って適正に判断し効果的に活用できる能力を身に付けることを目的とする。	
	統計分析法	○	自然界、知的活動、職業生活、そして社会生活などにおける様々な現象を理解するための一つの手段として、現象の構成要素を定量的に表現し、それらを整理、分析するという統計処理が行われることが多い。したがって、統計処理を正しく行い、統計データを読み解き自ら考えようといった力を身に付けることは、非常に重要となる。本科目では、これらの力を養うための数学的素養を身に付けることを目的とする。具体的には、データの整理の方法、データの分布に関する基本的な統計量の定義とそれらの性質、代表的な確率分布である二項分布や正規分布の定義と性質、そしてこれらを用いた統計的推定や統計的検定の基本的な考え方について学修する。	
	データサイエンス	○	スマートフォンやインターネットをはじめとする情報通信サービスの発展により、私たちの暮らしの中から数多くのデータを収集できるようになった。得られたデータを正しく扱い、適切な方法で分析し、価値のある情報を見出して活用する力はどの分野の人材にとっても必須である。本科目では、データに基づいて課題解決する際に必要な基本的知識と技術、すなわち、データの収集・加工・整形、分析手法、分析結果の可視化などの基本的な事項について学修する。さらに、学んだ知識、技術を実際のデータに適用し、問題発見、仮設定、検証のプロセスを体験する。	
	AI入門	○	これまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景などの歴史と合わせて、AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を学ぶとともに、自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について学修する。技術的な内容としては、機械学習（教師あり学習、教師なし学習）、深層学習の基本的な概念を理解し、それらがAIサービス/システムとしてどのように活用されるのかについてソフトウェアによる演習を行いながら理解を深め、実際の課題解決に適用する流れについて学修する。	
	フレッシュマンセミナー	○	<p>(概要)</p> <p>北海道科学大学で過ごす時間を充実したものとするため、大学での学びと生活に必要な基本的知識やスキルを身に付けて実践できるようになること、さらに専門分野での学びについて知ることで勉学への意欲を高め、将来設計を含めた目標に向けて自ら学修計画を立て、能動的な学びを実践できるようになることを第一の目的とする。また、情報科学を学ぶものとして学科の方針・特徴を知るとともに、表現・発言する力をさらに向上させ、他者と協働・協調して目的を達成する姿勢を培うことを第二の目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 谷川寿郎・7 檜山 純/13回) (共同)</p> <p>大学での学びと生活に必要な基本的知識（本学の歴史、社会的役割、大学生活を送る際の注意事項、学科のポリシー、カリキュラム、シラバス等）を身に付ける。さらに、学生個人の社会人基礎力を把握し、能動的な学びの実践をする力を付けるために、グループワークによる課題調査型の演習を行う。</p> <p>(1 鈴木育男・2 加地太一・3 谷川寿郎・5 瀬口潤輔・6 長坂晃朗・7 檜山 純・8 丹羽孔明/2回) (共同)</p> <p>各教員との個別面談を通して、これまでの活動の振り返りにより自身の状況を把握し、さらなる成長のための目標づくりを行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
H U S ス タ ン ダ ー ド 科 目	+Professionalセミナー	○	現代は、社会とそれを支える技術の進展が著しく、次から次へと新しい知識・技術が生まれてくるために、生涯にわたって学び続ける姿勢が大切である。また、専門分野の境界も常に変化し続け、異分野間の交流から独創的な概念や技術が生まれることも珍しくないため、自分の専門領域を広げる努力をすることも重要である。本科目では、あらかじめ本学教員等が作成したオンライン動画教材に基づき、専門外の複数の最先端分野のテーマについて学ぶことを通して、専門分野外の知識の獲得方法、学問的視野を広げることの意義、自己を向上させるために常に学び続ける知的習慣を身に付けることを目的とする。	
	現代倫理学	○	フランス革命後、一般国民が統治の主体となる国民国家が形成されたことが近現代のはじまりと言われる。国民国家では、工業や医療の飛躍的發展、都市部への人口の集中、宗教の国家管理、「個人」と「社会」の出現等によって人々の生活形態が変容したことに伴い、近現代社会に特有の、工業・医療の発展に由来する倫理的問題が生じるようになった。本科目では倫理学に関する基礎的知見を身に付けながら、公共秩序と個人の自由、信教の自由と国家、人の生のはじまりと終わりなどをめぐる諸問題をテーマとして取り上げ、倫理的見地を踏まえて社会の理解を深め、社会人として自律的に思考する姿勢を培うことを目的とする。	
	SDGs（環境と自然）		SDGsの17のゴールのうち、特に「6.安全な水とトイレを世界中に」「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」について各回のテーマとして取り上げる。水をはじめとする資源の問題、エネルギーの種類や課題について、日本や海外の現状を知る。海や陸の役割について理解し、気候変動の仕組み、地球温暖化の影響と対策について学ぶ。「13.気候変動に具体的な対策を」「17.パートナーシップで目標を達成しよう」の実現に向け、今後人間が自然と共生し続けていくために必要な自然環境の保全、人間社会の在り方を学ぶことを目的とする。	
	SDGs（環境と人権）		(概要) 現在、温暖化や自然破壊など地球環境の悪化が深刻化し、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっている。環境の悪化は社会的弱者の貧困や不平等、不利益を一層悪化させることから、環境問題への取組は災害や食料、医療、保健などの面で人々、とりわけ社会的弱者の人権の保障に繋がる。そこで本科目では、すべての人が地域で安心して生活できる自然環境と一人一人が生きがいを感じつつ生活できる社会環境の実現に関する諸問題を多面的・多角的に考察する。これは、SDGs項目の「3.すべての人に健康と福祉を」「5.ジェンダー平等を実現しよう」「13.気候変動に具体的な対策を」「15.陸の豊かさを守ろう」の4項目に対応する。 (オムニバス方式／全8回) (12 金澤昭良／4回) 自然環境教育、地球温暖化、生物多様性などを取り上げ、すべての人が地域で安心して生活できる自然環境の実現に向けての現状と課題について解説する。 (9 青山和弘／4回) 人権教育、こども基本法、発達障害者支援法などを取り上げ、一人一人が生きがいを感じつつ生活できる社会環境の実現に向けての現状と課題について解説する。	オムニバス方式
	SDGs（国際平和と民族）		世界で起こっている紛争は、民族や文化の多様性を軽視した統治に端を発していることが多い。そこで本科目では、我々を取り巻く世界がどのように動き、我々とは異なる文化を持った人々がいかに暮らしているかを紹介する。その中で、いかにして多様性を尊重しつつ、異なる民族や文化が共生する平和な社会が構築できるかを模索する。これは、SDGs項目の「1.貧困をなくそう」「2.飢餓をゼロに」「10.人や国の不平等をなくそう」「16.平和と公正をすべての人に」の4項目に対応する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ドH 科U ス タ ン ダ ー	SDGs（多文化共生）		世界の諸地域の伝統や文化に目を向け、“書かれた歴史”だけでなく、書かれていない民衆の歴史や文化についても共に考え、掘り下げる。その際、まず共にある人と人の関係性を考えた上で、他の動植物や昆虫などの人間以外の存在と共に我々がコミュニティを形成していることについても多角的に検討する。これは、SDGs項目の「10.人や国の不平等をなくそう」「14.海の豊かさを守ろう」「15.陸の豊かさを守ろう」の3項目に対応する。	
共通科目	体育実技Ⅰ		身体運動やスポーツに関する知識・技術などの修学や実技を通じて、人間の根本的な存在基盤である身体の健全な発達を促すとともに、望ましい健康観の確立、リーダーシップや強い意思と精神の陶冶などを図る。また、自主的に運動を行う態度・習慣を身に付けることにより、学生生活のみならず、生涯にわたってスポーツを生活化した健全なライフスタイルを確立することを目的とする。開講される4つのスポーツ種目、バレーボール、サッカー、硬式テニスあるいはソフトボールから、希望する種目を1つ選択して履修する。	
	体育実技Ⅱ		身体運動やスポーツに関する知識・技術などの修学や実技を通じて、人間の根本的な存在基盤である身体の健全な発達を促すとともに、望ましい健康観の確立、リーダーシップや強い意思と精神の陶冶などを図る。また、自主的に運動を行う態度・習慣を身に付けることにより、学生生活のみならず、生涯にわたってスポーツを生活化した健全なライフスタイルを確立することを目的とする。開講される2つのスポーツ種目、バドミントンあるいは卓球から、希望する種目を1つ選択して履修する。	
	健康科学		本科目は、健全な心身の形成の基盤となる知識修得や情報リテラシーの確立を目的として開講する。具体的には、持久力や瞬発力などの各種体力測定を通じた自身の現状把握や体力の保持・増進の意義、各種トレーニングの適切な実施方法の理解・修得を通して、生涯を通じた運動習慣獲得に向けた基盤構築を目指す。また、栄養、睡眠などの現状把握、知識修得を通じて、体力と同様に健全な心身の形成に不可欠な生活習慣の基盤構築も目指す。	
	日本国憲法		本科目では、現代における各国の憲法の特徴、日本国憲法の特徴とその制定の経緯について俯瞰的理解を得た上で、日本国憲法を構成する三つの要素、すなわち、平和主義、人権、統治機構について憲法の条文に即して正確に理解することを第一の目的とする。第二に、憲法と関わりのある数多くの判例について学ぶことを通じて、様々な社会問題を憲法の観点から捉える知的習慣を身に付け、現代社会における憲法の意義について理解を深めることを目的とする。	
	キャリア形成Ⅰ		現代の社会は急速に変化しており、新たな職業や役割が生まれている。このような環境下で生きる学生たちにとって、大学資源を最大限に活用し、学びや研究がどのように社会と結びついているかを理解する機会を提供する。予測困難な現代社会において、自分の強みや興味を探求し、自己肯定感を高め、主体的にキャリアを形成する力は不可欠である。本授業では、大学生活を充実させるための目標設定、社会や職業に関する興味と理解の深化、そして自己肯定感を持ち、学生たちが自らのキャリアパスを探求する力を身に付ける。	
	キャリア形成Ⅱ		「キャリア形成Ⅰ」で培った自己理解や目標設定をさらに発展させ、社会での具体的な職業や役割に対する理解を深めることを目指す。より実践的なアプローチを通じて、キャリア形成における意思決定プロセスを体験し、社会における自分の可能性を探る。インターンシップや就業体験をはじめとした実社会との接点となる機会に向けた実践的な準備を体験し、柔軟な思考力や問題解決力を養う。また、自己肯定感の向上と、自分の価値観や目指すキャリアパスを明確にし、変化する社会環境の中で主体的に行動できる力を身に付けることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
共通科目	ビジネススキルⅠ		専門的能力を発揮できる職業人に必要となる業務遂行能力及び対人関係能力について事例を通じて理解し、業務遂行の基本となるビジネスマナー、言語理解や論理的思考を身に付ける。他者との協働に欠かせない挨拶、表情、態度、言葉づかい等を体験的に学修するとともに、複雑化した現代社会を生き抜くために共通して求められる汎用的な知的能力、即ちリテラシーとロジカルシンキングに基づく問題解決能力を高めるための資質を身に付ける。		
	ビジネススキルⅡ		専門的能力を発揮できる職業人に求められる業務遂行能力及び概念化能力を具体的に理解した上で、知識や情報、経験などを基に、物事の本質を見極めるとともに、複雑なことを分かりやすく表現するための基礎能力を養う。様々な人々と円滑な協働関係を構築するための傾聴や自己表現の手法を実践的に学修するとともに、交渉力やプレゼンテーション力を高めるために必要となる論理的かつ友好的な言語表現や図解表現についてグループ学習を通じて身に付ける。	講義 18時間 演習 12時間	
	技術者のための英語		本科目の目的は、技術者として最低限必要な英語能力を修得することである。そのために、専門分野に関する簡易な英語の文献を理解し、情報科学分野における英語による他者との適切なコミュニケーション能力、特に、文字を媒体とするコミュニケーション能力（記述力）を身に付けることを目指す。基礎的な科学技術に関するテキストの読解と演習、また英語によるエッセイライティングやプレゼンテーションを通して、専門分野に関する英語力を身に付ける。毎回、予習ではpre-reading、復習では自分の考えを英語で表現する活動が課せられる。さらに適宜、課題や小テストを行い、技能や知識の定着を図る。		
専門教育科目	専門基礎科目	情報科学概論	○	本科目では、情報学全体を俯瞰し、情報学の学びを通じて獲得すべき知識や能力について理解することを目的として、社会の情報化が生活に及ぼす影響及び情報の意義や役割と情報学を学ぶことの社会的意義や職業的意義、情報学を学んだ者の社会における役割や使命について理解する。また、情報学の定義と固有の知識の体系や特性及び情報学の系譜と歴史的な変遷の理解とともに、修得すべき知識や能力について学修する。	
		経営情報概論	○	本科目では、経営情報学の定義と特性や役割及び経営情報学を学ぶことの社会的意義や職業的意義について概説した上で、経営情報学の学びを通じて獲得すべき基本的な知識と理解について解説する。その上で、社会の情報化と情報技術の進展について概説するとともに、情報技術の進歩による経営活動と情報との関わりや経営活動における情報や情報技術が果たす役割と機能及び経営情報を取り巻く諸情勢について学修する。	共同
		ICTリテラシー	○	本科目では、大学での学術的な情報活用のためのツールとして、コンピュータや情報ネットワークを扱うためのスキルと能力を身に付けることを目的とする。セキュリティ対策を含めたパーソナルコンピュータの基本的な取り扱いから、アカデミックライティングを実現する文章処理、学術活動に必要なデータ処理法、説明技術としてのプレゼンテーション技法、学術活動のためのインターネット活用法などについて学修する。	
		情報数理Ⅰ	○	本科目では、コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論を理解することを目的として、基数と基数の変換手法、数値の表現について学ぶとともに、加減乗除、表現可能な数値の範囲、シフト演算、演算精度など、コンピュータにおける算術演算について学修する。また、集合、命題、ベン図の手法と考え方について学ぶとともに、論理式の表現、論理演算、ド・モルガンの法則などの基本法則と真理値表の手法について学修する。	
		情報数理Ⅱ	○	本科目では、データの収集、分析、加工に必要な確率と統計の計算と分析手法を理解することを目的として、順列、組合せ、確率の考え方について学ぶとともに、度数分布表、ヒストグラム、代表値などの統計分析の手法について学修する。また、線形代数、行列などの数値計算について学ぶとともに、数値解析、数式処理、グラフ理論の基本的な概念とグラフの読み取り方、待ち行列理論など基本的な数学的原理について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基礎科目 専門基幹科目	情報倫理	○	本科目では、社会的責任を負う職業人としての適正な行動や関係する法令を遵守する態度を養うことを目的とする。知的財産や個人情報及びプライバシーの侵害、企業や個人に対する誹謗や中傷などの問題点を取り上げながら、情報社会における適正な行動について考えるとともに、個人情報の保護に関する法律や不正アクセス行為の禁止等に関する法律及び著作権法などの情報に関する法規の目的と内容について学修する。	
	情報理論Ⅰ	○	本科目では、情報に関する理論の理解を目的として、情報の意味について学ぶとともに、情報の種類と概念について理解する。その上で、情報理論と符号理論の考え方や仕組みとコードによる文字の表現について学び、述語論理、形式言語、オートマトンなど情報に関する理論、コンパイラ理論とプログラム言語論や意味論の考え方や仕組みについて学ぶとともに、人工知能の基本的な考え方や仕組みや代表的なモデルについて学修する。	
	情報理論Ⅱ	○	本科目では、通信に関する理論の理解を目的として、伝送路の考え方や仕組みについて理解するとともに、情報を伝送するための技術について、変復調方式や多重化方式などの代表的な方式の考え方や仕組みと応用について学ぶ。また、計測と制御に関する理論の理解を目的として、信号処理の考え方や仕組みと応用、制御の考え方や仕組み、センサー・アクチュエーター及び計測システムの種類と動作特性について学修する。	
	ハードウェアとソフトウェア	○	本科目では、ハードウェアの基本的な概念を理解し、コンピュータがどのように数値や文字データを処理するか、また主記憶装置や周辺装置の構造と機能を学ぶ。また、ソフトウェアについては、その体系と分類、文書処理や表計算などの応用ソフトウェアの特性と用途を掘り下げる。さらに、プログラム言語やGUIのユーザインタフェースの役割についても説明する。これにより、コンピュータの技術的側面と実際の応用についての理解を深める。	
	アルゴリズムとデータ構造	○	本科目では、アルゴリズムを表現するための順次、選択、繰り返しの基本的な構造について理解するとともに、流れ図や構造化チャートなどのアルゴリズムの図式化に必要な知識と表現技法について学修する。また、各種の数値型や文字型及び論理型などのデータの形並びにレコードや配列などのデータの構造について学び、データ構造の選択と効率的なアルゴリズムの関係及び効率的なプログラムの開発技法について学修する。	
	プログラミング言語と言語処理系	○	本科目では、プログラミング言語と言語処理系の理論や実装について理解することを目的として、プログラム言語の変遷と分類及び種類や特徴と記述方法について学ぶとともに、プログラム言語の制御構造や記憶域と構文規則や意味規則について学修する。また、字句解析、構文解析、意味解析、最適化、コード生成など言語処理系の役割と機能について学び、トランスレータ、コンパイラ、インタプリタ、仮想マシンなどの実行方式について学修する。	
	プログラミングⅠ	○	本科目では、コンピュータのプログラミングに関する知識と技術を修得し、実際に活用する能力と態度を身に付けることを目的として、プログラミング作法とコーディング標準及びプログラム構造について学ぶ。その上で、プログラム言語の基本的な命令文について学ぶとともに、プログラムの作成からテストやデバッグまでの一連の作業に必要な知識と技術及びプログラムの翻訳や効果的な開発の技法について学修する。	
	プログラミングⅡ	○	本科目では、コンピュータのプログラミングに関する知識と技術を修得し、実際に活用する能力と態度を身に付けることを目的として、統計処理の基本となる合計、平均、分散及び標準偏差など、数値計算のアルゴリズムとプログラムについて学ぶ。また、コンピュータを利用した数値計算で生じる誤差の種類や特徴及び有効桁数や計算順序などによる計算結果の誤差を減らすためのアルゴリズムの工夫について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門基幹科目	データサイエンス演習Ⅰ	○	本科目では、データサイエンスが必要とされる背景やデータ分析に基づく問題解決プロセスを紹介した上で、記述統計によるデータの把握と比較の方法及び比較の視点（クロス集計の軸設定と見方）や傾向の視点（時系列データの解釈）について学ぶ。また、ビジネスにおける予測や評価（回帰分析による予測）と分析結果の報告（記述と可視化方法）及び統計的検定のうち仮説検定の理解と代表的な手法の活用について、実データを用いた演習を通じて学修する。	
	データサイエンス演習Ⅱ	○	本科目では、データ分析に関する知識と技術を総合的に活用する能力の修得に向けて、Excelや統計解析ソフトRを用いたデータ分析を行う。具体的には、基本統計量や回帰分析、各検定の実行方法など、Excelを用いた分析手法について学ぶとともに、Rの環境構築や基本操作及び基本統計量の算出、データ可視化、回帰分析による予測モデルの作成と評価など、統計解析ソフトRを用いたデータ分析の手法について実践的に学修する。	
	ビジネスデータサイエンス	○	本科目では、データ分析の基礎的な知識の修得を目的として、統計分析の意義の理解に向けて、実際のビジネスデータを用いた分析事例の紹介や統計データの活用について学ぶ。また、統計分析に必要な統計学の基礎理論を修得した上で、日常的に接するデータの見方や効果的なグラフ表現の手法について学ぶとともに、誰もが入手可能な公的統計データの収集方法や分析手法、ビジネス意思決定への応用について実践的に学修する。さらに、データに基づく問題解決アプローチやデータ可視化の技術についても理解を深める。	
	人工知能と機械学習	○	本科目では、人工知能の基本概念、歴史的発展とその応用領域を概説し、ビジネス活用の最新動向や課題を探るとともに、ワークショップによる人工知能の操作方法について体験的に学修する。また、機械学習の技術の本質と活用及び留意点に焦点を当て、分析や予測の方法について学び、自然言語処理や画像生成などの具体的応用を考察する。さらに、経営情報学の視点から、企業におけるAI導入戦略やデータ活用、倫理的課題についても事例を交えて学修する。	
	経営科学	○	<p>(概要)</p> <p>本科目では、企業活動や経営管理に関する基本的な知識の理解とともに、経営に関わる問題を科学的な方法論で考える能力を養うことを目的とする。企業活動の目的と経営管理や経営組織に関する基本的な考え方や企業活動におけるIT利活用の動向について概説した上で、経営活動に関する現象や事象を把握するための科学的手法の考え方や意思決定プロセスを合理化・効率化するための科学的方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (3 谷川寿郎／10回)</p> <p>企業の活動や経営管理の基礎について解説する。経営の目的、経営組織の構造、企業を取り巻く環境変化など、企業経営の全体像を理解する。また、経営に関わる問題を論理的に捉え、解決に導くための科学的な思考法や意思決定の方法について、具体的な事例を交えながら考察する。</p> <p>(14 真田博文／3回)</p> <p>経営活動におけるIT利活用の動向、情報システムの経営戦略への貢献、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進などについて概説する。情報技術が経営課題の解決や新たな価値創造にいかに関与するかを、多角的な視点から論じる。</p> <p>(3 谷川寿郎・14 真田博文／2回) (共同)</p> <p>経営課題に対し、経営科学の科学的手法とITによるデータ活用の知識を統合し、データに基づいた合理的な意思決定プロセスを学ぶ。また、DX時代の先端IT技術が経営に与える影響を考察し、科学的思考とITの相乗効果を議論する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基幹科目	経営情報システム	○ <p>(概要) 本科目では、経営活動の効率化を図るための組織内で使用されるコンピュータベースの情報システムについて理解することを目的とする。経営情報システムの意義と役割や要素について概説した上で、優れた経営情報システムの実践事例の考察を通して、システム化の推進や運用・管理のあり方について学ぶとともに、経営戦略を踏まえた情報化戦略としての戦略情報システムや、システムの狙いや特長について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 谷川寿郎/6回) 経営戦略と情報システムの連携に焦点を当てる。情報化戦略としての戦略情報システムの概念を深く掘り下げ、経営目標達成のために情報技術がどのように活用されるべきかを論じる。また、各システムの狙いや特徴を分析することで、戦略的な視点から情報システムを捉える能力を養う。</p> <p>(14 真田博文/6回) 経営情報システムの基本的な概念と役割を解説する。企業における情報システムの意義、構成要素、そしてその導入と運用・管理の方法について、具体的な事例を交えながら学ぶ。優れた情報システムがどのように経営活動の効率化と問題解決に貢献しているかを考察する。</p> <p>(3 谷川寿郎・14 真田博文/3回) (共同) 経営情報システムの基礎と戦略的成果を事例研究で統合し、システム導入の成功要因とリスクを議論する。さらに、DX時代におけるクラウドやAIなどの最新技術が、戦略情報システムに与える影響と役割を考察する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	専門展開科目	Webプログラミング		<p>本科目では、Webアプリケーションの開発を題材として、コンピュータによるプログラム開発に関する知識と技術を修得し、実際に活用する能力と態度を身に付けることを目的として、プログラム開発における要求分析や設計、ドキュメンテーション、テスト及び修正などのプログラム開発の全体の流れと効果的なプログラム開発の技法について体験的に学ぶ。また、プログラム開発における問題処理手順の文書化の重要性の理解と手法について学修する。</p>
		コンピュータシステム	<p>本科目では、コンピュータシステムに関する知識と技術を修得し、実際に活用する能力と態度を身に付けることを目的とする。情報をコンピュータで処理するためのシステムの概要について概説した上で、システムの分析や設計及び開発の基本的な手法について学ぶとともに、コンピュータシステムの基本的な運用方法や保守及びシステムの安全性や信頼性、システムの性能特性と評価指標や評価方法について学修する。</p>	
		データベース	<p>本科目では、データベースに関する知識と技術を修得し、実際に活用する能力と態度を身に付けることを目的として、データベースの機能と動作の仕組みや設計の手順及びデータ操作の仕組みについて理解した上で、データベースの有用性とデータベースシステムの活用状況について理解する。また、データモデルの種類や特徴と正規化の内容や必要性及び集合演算や関係演算などデータ操作の知識と技術について学修する。</p>	
		情報ネットワークとセキュリティ	<p>本科目では、ネットワークの基本的な構成と通信プロトコルの理解を深めつつ、情報セキュリティ技術の重要性にも焦点を当てる。具体的には、ネットワーク方式、ネットワークアーキテクチャの特徴、インターネットの仕組み、そしてIoTネットワークの要素について学ぶ。セキュリティの側面では、暗号化、アクセス管理の必要性、情報システムの信頼性強化、不正アクセス防止策、コンピュータウイルス対策、及びネットワーク障害の管理とソフトウェア保護について詳細に解説する。これにより、学生はネットワーク技術とセキュリティ管理の両方における知識と技術を総合的に修得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門展開科目	マルチメディア		本科目では、マルチメディア技術に関する知識と技術の修得を目的として、マルチメディアの定義や種類と特徴及び関連技術の活用について学ぶ。また、文字、画像、音声、動画などをデジタル化するための標準化や量子化について学んだ上で、マルチメディア情報の圧縮と復元の原理や方法及びデジタルデータの送受信について理解するとともに、それらの表現技法について学修する。さらに、AR・VRなどの最新技術や人工知能を活用したメディア処理についても概観する。	
	ソフトウェア開発基礎		本科目では、ソフトウェア開発の基本的なプロセス（要件定義、設計、実装、テスト）についての理論と技術を修得することを目的とする。プロジェクト管理や品質保証などの要素も扱い、ソフトウェア開発の基礎を固める。学生は、実際に開発プロセスを経験し、基礎知識を実践で応用するスキルについて学修する。また、バージョン管理システムの活用方法についても触れ、チーム開発における効果的なコミュニケーション手法やドキュメント作成の重要性についても理解を深める。	共同
	ソフトウェア開発演習		本科目では、実際のソフトウェア開発プロジェクトを通じて、チームでの開発プロセス全般を経験することを目的とする。プロジェクト管理、チームワーク、コミュニケーションスキルを重視し、実践的な問題解決能力を養う。最新技術を用いた開発を行い、効果的なソフトウェア開発の技法について学修する。また、アジャイル開発手法やスクラムなどの反復型開発プロセスを実践を通じて理解する。さらに、コードレビューやペアプログラミングといった協働開発技術の修得にも取り組む。	共同
	システム開発技術基礎	○	本科目では、企業の業務効率化を図る仕組みの設計から運用までの基本的なプロセスについて理解するとともに、関連する技術を身に付けることを目的とする。システム開発の目的とプロセスの基本的な流れについて概説した上で、システムやソフトウェアの要件定義と設計における基本的な役割について学ぶとともに、設計に従ったプログラムの作成と単体テスト、プログラムの統合と動作確認及び導入と保守について学修する。	
	システム開発技術演習	○	本科目では、「システム開発技術基礎」で学修したシステムの開発に関わる一連のプロセスを活用して、実際の現場で運用できるシステムの企画と開発をするための知識と技術の統合を図ることを目的とする。「要件定義」、「設計」、「プログラミング・単体テスト」、「統合・テスト」という工程を経て、「導入・受入れ」、「保守・管理」までのシステム開発の展開と実践及びプロジェクト全体の管理について体験的かつ実践的に学修する。	
	機械学習演習		本科目では、機械学習の基礎を学び、実際にデータを用いて予測や判断を行うスキルを身に付けることを目的として、プログラミング言語「Python」の環境設定や操作方法とプログラミングの基礎知識を学ぶ。その上で、機械学習の基礎概念、用語、データの前処理、手法の適用、評価方法などの基本及び機械学習で使われる手法の概要や特徴について学修するとともに、演習を通して機械学習の一連の流れを学ぶ。	
	デジタル技術活用		本科目では、デジタル技術を活用するメリットやデジタル技術を活用した高付加価値化モデルについて学修した上で、高付加価値化を目指す際に留意すべき視点について理解するとともに、高付加価値化を実現するためのプロセスについて学修する。その上で、デジタル技術を活用する企業の現状の実態を整理し、高付加価値化の実現に向けたチェックリストの概要と具体的な取り組み事例（IoTやAI、ビッグデータなどの活用）を取り上げながら考察する。	
	シミュレーション		本科目では、入力データのサンプルや既知の数学的モデルを使用して、システムで発生する可能性のある結果を予測するシミュレーションに関する知識と方法を修得することを目的とする。シミュレーションの意義と重要性や利点及び機能と構成要素や手順について解説した上で、実際の経営活動の場面においてシミュレーションを活用する代表的なケースを取り上げながら、シミュレーション分析の技法について学修する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門展開科目	オペレーションズ・リサーチ		本科目では、経営活動において生じる様々な問題を科学的に分析し、合理的な意思決定を支援するために用いられる数理的・科学的な方法論と技法について理解することを目的とする。ORの意義と役割について概説した上で、問題の定式化と問題を解くための最適化手法や機械学習手法について学ぶとともに、意思決定問題の抽象化と既存の解法から適切なものを選択・求解し、その妥当性を検証する手法について学修する。	
	経営管理システム		<p>(概要)</p> <p>本科目では、経営活動における様々な情報を集約し、経営管理を効果的に行うためのシステムについて理解することを目的とする。経営管理の意義と目的や必要性及び種類と方法について概説した上で、経営管理を効果的に行うための経営管理システムに関する基本的な用語や考え方や対象と機能について学ぶとともに、代表的な経営管理システムの考察を通して、特徴や考え方の理解と実際の適用について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (3 谷川寿郎／10回)</p> <p>経営管理の意義と目的、そしてその種類と方法について概説する。経営活動において、情報がいかに重要であり、それを効果的に集約・活用することの必要性を解説する。代表的な経営管理システムが持つ特徴や基本的な考え方について、経営の視点から考察する。</p> <p>(14 真田博文／3回)</p> <p>経営管理システムが持つ機能や技術的な側面に焦点を当てる。経営管理システムを構成する要素、データの集約方法、情報の可視化など、システムの仕組みを具体的に解説する。また、実際の企業で適用されている経営管理システムの事例を挙げ、その運用方法や効果について分析する。</p> <p>(3 谷川寿郎・14 真田博文／2回) (共同)</p> <p>経営管理の目的・意義と、それを支えるシステムの機能・仕組みを統合し、具体的な事例を通して、管理会計や業績評価などの経営管理手法が、システム上でどのように実現・運用され、経営に貢献しているかを学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	会計情報システム		<p>(概要)</p> <p>本科目では、企業内外の利害関係者に提供される会計情報を出力する会計情報システムに関する知識と技術を修得し、実際に活用する能力と態度を身に付けることを目的とする。企業活動における会計の意義と役割や仕組みについて概説した上で、会計情報システムの目的や機能と構造について学ぶとともに、経営層の意思決定や会計部門の業務効率化を支援するための会計情報システムの運用や保守管理について学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (7 檜山 純／12回)</p> <p>企業経営における会計の意義と役割を解説する。会計情報が企業内外の利害関係者にとってなぜ重要なのか、そしてその情報がどのように企業の意思決定に影響を与えるかを論じる。経営層の意思決定を支援する会計情報システムの役割や、会計部門の業務効率化におけるその活用方法に焦点を当てて考察する。</p> <p>(16 松崎博季／2回)</p> <p>会計情報システムの技術的な側面と構造を解説する。システムの目的、主要な機能、そしてデータの流れや内部構造を具体的に学ぶ。会計情報システムの運用、保守管理、そしてセキュリティ対策の重要性について技術的な視点から考察し、実践的な知識を修得する。</p> <p>(7 檜山 純・16 松崎博季／1回) (共同)</p> <p>会計情報の経営的役割と、それを実現するシステム構造・機能を統合して考察する。企業の意思決定や業務効率化において、会計情報システムがどのように運用・活用され、セキュリティを確保しつつ経営に貢献しているかを事例で学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門展開科目	原価管理システム		<p>(概要) 本科目では、企業活動で発生するコストを計画的に管理し、企業全体の収益性の向上を図るための原価管理と原価管理システムに関する知識の理解を目的とする。原価の概念及び原価管理の意義や目的と必要性について概説した上で、原価管理の主な対象や手順と原価管理の手法について学ぶとともに、原価管理をシステム化するためのメリットとポイント及び原価管理システムの設計や改善と維持管理の方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 檜山 純/12回) 原価の概念と原価管理の意義、目的、そしてその必要性について概説する。企業活動で発生するコストを計画的に管理し、収益性向上に繋げるための経営的視点を養う。原価管理の主な対象、手順、そして手法について具体的に考察し、経営戦略における原価管理の役割を理解する。</p> <p>(16 松崎博季/2回) 原価管理をシステム化する際のメリットと重要なポイントを解説する。原価管理システムの設計、改善、維持管理の方法について、技術的な視点から具体的に学ぶ。いかにしてシステムが経営者の意思決定を支援し、業務の効率化に貢献するかを、実践的な視点から論じる。</p> <p>(7 檜山 純・16 松崎博季/1回) (共同) 原価管理の手法をシステム上でいかに実現・活用するかを学ぶ。経営者が求める収益性向上のための原価情報が、システム設計・運用によって意思決定にいかに関与し、業務を効率化するかを事例を通して考察する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	生産管理システム		<p>本科目では、経営計画や販売計画に従って効率的な生産活動を計画・組織・統制する生産管理と生産管理システムに関する知識の理解を目的とする。生産管理の目的や役割と要素及び主な生産活動に関する業務について概説した上で、生産管理をシステム化することの必要性の理解と生産管理システムの定義や特徴と代表的な機能について学ぶとともに、最適な生産管理システムを開発するための確認要件と手順について学修する。</p>	
	経営情報分析		<p>本科目では、経営統計及び経営分析に関する基本的な知識の修得を目的として、経営判断の指標となりうる統計資料の種類や内容及び効果的な利用方法について解説する。また、経営分析における経営内容を把握するための情報収集及び経営分析のための代表的な手法とデータの可視化手法について学ぶとともに、経営活動に関する情報を分析する手法を用いた経営戦略策定のための経営情報分析手法について実践的に学修する。</p>	
	ロジカルシンキング		<p>本科目では、論理的な思考方法の基礎を身に付け、ビジネスにおける問題解決に活用する能力を育成することを目的とする。演繹法、帰納法などの基本的な論理的思考法について学ぶとともに、ロジックツリーやピラミッドストラクチャーなどの思考整理のためのフレームワークについて理解する。また、具体的なビジネスケースを用いて、問題の構造化、原因分析、解決策の立案など、論理的思考を活用した問題解決の手法について実践的に学修する。</p>	
	イノベーション・デザイン		<p>本科目では、企業や組織におけるイノベーション（革新）の意義と重要性について理解することを目的とする。イノベーションの類型や特徴について概説した上で、製品イノベーション、プロセスイノベーション、ビジネスモデルイノベーション、業務イノベーションなどの具体例を学ぶ。また、組織におけるイノベーションの推進方法や阻害要因について理解するとともに、デジタル技術を活用したイノベーションの実現方法について、具体的な事例を通して学修する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 専門研究科目	経営情報研究法	○	本科目では、組織体の諸活動に関する問題や課題を追求し、発展させていくための研究の原理と基礎的な知識や方法について学修する。具体的には、研究の位置づけと意義や研究の種類について概説した上で、研究のプロセス、研究の方法、研究の倫理などについて理解するとともに、情報収集や分析方法、文献検索や文献購読の方法、研究計画の立案と研究計画書の作成、研究論文の書き方や研究発表の仕方について学修する。	
	経営情報演習Ⅰ	○	本科目では、表計算ソフトウェアの活用によるビジネスに関する情報の処理と分析を行うための能力の修得を目的として、表計算ソフトウェアの機能を活用した表やグラフを作成するための技法及び情報を整理・検索・抽出し、表現するための技法について学修する。また、ビジネス文章の作成に関する能力の修得を目的として、表、グラフ、図形及び画像を効果的に用いた報告書、提案書、リーフレットなどの作成技法について学修する。	
	経営情報演習Ⅱ	○	本科目では、表計算ソフトウェアの活用によるビジネスに関する計算と集計・分析を行うための能力の修得を目的として、計算ソフトウェアの機能を活用したビジネスに関する計算、グループ別集計、クロス集計及びシミュレーションを行うための技法について学修する。また、データベースソフトを有効に活用するための能力の修得を目的として、データベースソフトを活用したビジネスに関する情報の管理と活用するための技法について学修する。	
	経営情報実践Ⅰ		本科目では、ビジネスの諸活動において情報システムを活用するための能力の修得を目的として、売上成長率や売上構成率の計算、損益分岐点分析、ABC分析など、販売情報の分析と活用する方法について理解する。また、企業の収益性や安全性などの財務情報の分析と活用する方法について学修する。その上で、情報システムの構築による業務の合理化や効率化をしている具体的な事例を取り上げながら、情報システムの有用性について考察する。	
	経営情報実践Ⅱ		本科目では、情報通信技術を電子商取引に応用する能力の修得を目的として、情報通信技術を活用した商取引や広告・広報における各種コンテンツの活用について学ぶとともに、ウェブページ制作の基礎と応用及び公開の技法について学修する。その上で、模擬的な電子商取引のシステムを構築する課題を設定し、商品広告、商品販売、代金決済などに用いるウェブページを制作し、公開するための技法について実践的に学修する。	
	卒業研究	○	本科目では、専門的な知識と技能の深化や総合化を図り、課題解決や生涯学習に自発的かつ創造的に取り組む態度を育てることを目的として、学生自ら興味や関心のある組織体の諸活動に関する研究課題を設定し、研究課題に則した研究計画の策定から、研究計画に基づく資料収集や調査研究を行う。報告や意見交換を繰り返しながら、課題研究の成果についての発表を通して、自己の考えを展開する能力を高める。	

学校法人北海道科学大学 設置認可等に関する組織の移行表

【令和8年度】

【令和9年度】

大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員		大学・学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
北海道科学大学					北海道科学大学				
工学部					工学部				
機械工学科	92	—	368		機械工学科	92	—	368	
電気電子工学科	80	—	320	⇒	電気電子工学科	80	—	320	
建築学科	90	—	360		建築学科	90	—	360	
都市環境学科	50	—	200		都市環境学科	50	—	200	
情報科学部					情報科学部				
情報科学科	100	—	400	⇒	情報科学科	100	—	400	
					経営情報学科	50	—	200	学科の設置(届出)
薬学部					薬学部				
薬学科(6年制)	180	—	1,080	⇒	薬学科(6年制)	180	—	1,080	
保健医療学部					保健医療学部				
看護学科	90	—	360		看護学科	90	—	360	
理学療法学科	50	—	200	⇒	理学療法学科	50	—	200	
臨床工学科	70	—	280		臨床工学科	70	—	280	
診療放射線学科	50	—	200		診療放射線学科	50	—	200	
未来デザイン学部					未来デザイン学部				
メディアデザイン学科	90	—	360	⇒	メディアデザイン学科	90	—	360	
人間社会学科	50	—	200		人間社会学科	0	—	0	令和9年4月学生募集停止
					地域創造学科	75	—	300	学部の設置(認可申請)
計	992	—	4,328		計	1,067	—	4,628	
北海道科学大学大学院					北海道科学大学大学院				
工学研究科					工学研究科				
機械工学専攻(M)	5	—	10		機械工学専攻(M)	5	—	10	
電気電子工学専攻(M)	4	—	8		電気電子工学専攻(M)	4	—	8	
情報工学専攻(M)	4	—	8	⇒	情報工学専攻(M)	4	—	8	
建築学専攻(M)	4	—	8		建築学専攻(M)	4	—	8	
都市環境学専攻(M)	4	—	8		都市環境学専攻(M)	4	—	8	
工学専攻(D)	6	—	18		工学専攻(D)	6	—	18	
薬学研究科					薬学研究科				
薬学専攻(4年制D)	3	—	12	⇒	薬学専攻(4年制D)	3	—	12	
保健医療学研究科					保健医療学研究科				
看護学専攻(M)	5	—	10		看護学専攻(M)	5	—	10	
リハビリテーション科学専攻(M)	4	—	8	⇒	リハビリテーション科学専攻(M)	4	—	8	
医療技術学専攻(M)	4	—	8		医療技術学専攻(M)	4	—	8	
保健医療学専攻(D)	3	—	9		保健医療学専攻(D)	3	—	9	
計	46	—	107		計	46	—	107	